

京都党

KYOTO PARTY
地域政党

党機関紙

「京都党」

第18号

- トピックス 1面 ……「統一地方選を終えて」
 2面 ……市会報告 京都市会代表質問要旨
 3面 ……市会報告 プレミアム商品券に反対／「京都市動物による迷惑の防止に関する条例」の制定
 4面 ……活動報告 クラウドファンディング／地域政党京都党assembly2015マニフェスト発表会

統一地方選を終えて

この統一地方選、本当に多くの方にお世話になりました。私自身無事に4選させて頂き、議席も念願の交渉会派入りの5議席を頂きました。一步前進ですが、その代償は余りに大きく、多くの同志を押し上げることができませんでした。特に、北区、中京区ではわずかに数十票差で惜敗、踏ん張りが効かず全域で辛酸を嘗める結果となりました。過去最低の投票率、地域政党は全国的に議席を減らし、関西では維新の嵐、他党による選挙協力など様々な要因はありますが、艱難辛苦あろうともぶれずに選挙協力をせず、組織に頼らず、自力で勝つことを信条にした我々の力不足です。とはいえ、この凄まじい逆風の中で、押し留まることが出来たのは多くの市民の皆様、後援会の皆様のおかげであり、得るものも多かったのも事実です。今、為すべきことは、その思いとご期待を十二分に答えることだけです。自省し、早急に組織の立て直しを図り、しっかりとその責を全うしたいと思います。

引き続き、皆様のご指導ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

京都党代表 村山祥栄

当選者の顔ぶれ



左京区【市会】
村山しょうえい



右京区【市会】
江村りさ



下京区【市会】
やまづまい子



中京区【市会】
大津ゆうた



上京区【市会】
森かれん

市会報告《京都市会代表質問要旨》

平成27年2月～3月の京都市会代表質問の内容をそのままにお伝え致します。

●財政非常事態宣言はいつまで続くのか？

『27年度予算編成にあたり、全会計で608億、一般会計で189億。攻めの経営、積極予算。聞こえはいいが、その実、予算の前段階で198億円の財源不足、最終段階で74億円の予算不足が発生。給与制度の見直しや職員削減、事業見直しなど様々な取組をされていることはいいことですが、残念ながらその大半は公債償還基金の取り崩しと行革債の活用、市有地等の売却です。特別の財源対策が必要です。これまでも公債償還基金の取り崩しは容認できないと主張。予算編成のあり方についても各局積み上げ型の予算編成ではなく、歳入ありきでトップダウンで歳入の範囲内で予算を編成するよう要請してましたが、残念ながら本年も特別な財源対策が発生していることは遺憾。一般財源収入が伸びない。このことが本市の財政運営を厳しくしています。』（予算議案説明要旨より）

確かにその通りですが、それならば使うなということです。義務的経費はじわじわと上がり、公共建築物の老朽化が著しく、耐震補強、国保介護の繰出金と削減できない予算が多いです。それゆえに最低限の予算を組むべきであり、特別な財源対策は容認し難いものがあります。なぜ、本来許されない特別な財源対策が許されるのか。それは、非常事態だからです。

しかし、非常事態宣言が発せられて今年で14年目の予算編成です。14年も続くものを非常事態と呼び続けるのはいかがなものか。これは市長が廃止を提唱している国の臨時財政対策債も同じです。臨時といいながらもずっと臨時です。市長の行革の取り組みは目を見張るものがありますが、それ以上に義務的経費がかさみ続け、改革をし続けても、その分が必要経費に飲み込まれるという状態が続いています。これは、財政非常事態ではなく、慢性的、構造的財政危機状態というべきものであり、今議会の議論を通じ、財政非常事態宣言を撤回、そして「構造的財政危機状態」と改名し、市長の名において発して頂きたいと存じます。

●住みやすい街？住みたい街？

人口減少社会を迎えるにあたり、都市間競争がいよいよ激化してきました。どうすれば勝ち残れるのだろうか。政治家はよく「住みやすい街をつくります」と声高に叫びますが、私たちは「住みやすい」よりも「住みたい街」を目指したほうがいいと思っています。なぜなら、住みやすいというのは究極的にはサービス合戦になり、資金が潤沢なところに勝てません。事実これまで、地方はこの消耗戦に力を尽くしてきました。結果、東京一極集中に歯止めをかけることはできませんでした。そう、それはまるで企業でいうところの価格競争であり、目指すべきは、奇しくも京都型ビジネスモデルが高付加価値適正価格型であるように、決して安くはないですが高度にブランディングされたものを目指すことが都市戦略上強いと考えます。

それに加え、京都はもともと住みやすい街ではありません。夏は暑くて冬は寒い。家を建てようものなら、やれ景観だ、やれ看板だ、やれ高さだと規制も多い。家ひとつ好きな家を建てられない。戦火を免れた関係で大都市の中ではどこよりも道路が狭い。空港もない。しかし、そもそもこれも含めて京都の良さにつながっています。

パリもそうです。街中は建て替えできない。家は狭いし、古い。物価は高い。しかし、パリは世界を魅了し続け、ハイセンスな情報発信拠点として発展しています。

京都市の市政方針ももちろん、これらを踏まえた戦略を取られています。こういった方針をより明確にし、より重点的に予算を配分され、「住みにくいけど世界一住みたい街京都をつくる。」

これらを次期策定の都プランにしっかりと打ち出し、市政の舵取りを賜りたいと存じます。

市会報告

●プレミアム商品券に反対

平成26年度最後の補正予算において、消費喚起を目的に出された「京都市プレミアム商品・サービス券」。この商品券は1万円で1万2000円分の商品券を購入でき、2000円分は京都市が補助金を出す仕組みです。しかし、額面の低さや投入額の低さから、消費喚起を期待できるものとは到底言えず、京都市は委員会で厳しく追及し反対しました。そもそも、これまで地方は国が補助金を出すならば、「タダでもらえるものならば」と受け取ってきました。しかし、国のお金も当然私たちの税金であることを考慮すれば、政策的な効果が見込めない税金の用途には厳重に向き合わなければなりません。未来に対して責任を持つということは、時には国に対しても勇気を持ってNOを突きつけることでもあり、これからの地方議会はその観点でも発想の転換が必要と考えます。ちなみに、他党派からも本案件について政策的には否定的な意見も出ましたが、結局我々だけが反対をする結果となりました。

●「京都市動物による迷惑の防止に関する条例」の制定

昨年の代表質問にて、佐々木たかし議員が取り上げた人と動物が共生できる社会を実現するための条例が成立しました。この条例案では、周囲に迷惑をかける餌やりを禁止し、最も人道的に野良猫を減らせるとされるTNR活動へと誘導しようとするものです。もちろん、この条例だけで全ての問題が解決するわけではありませんので、条例制定を契機に人と動物が仲良く暮らせる社会に向け、更なる取り組みに邁進してまいります。



活動報告

●地域政党京都党 総決起集会

平成27年2月22日。京都教育文化センターにて総決起集会を開催致しました。多くの皆様にお集まりいただき、心より感謝申し上げます。村山代表より4月へ向けた決意を訴えました。



ガンバローコール



村山代表による熱い演説

活動報告

●クラウドファンディングを実施

平成27年統一地方選挙におけるマニフェストの作成に向けてクラウドファンディングを実施させて頂きました。政党としてクラウドファンディングを行うことは国内初です。まだまだ日本では馴染みのない言葉ですが、不特定多数の人からインターネットを通して活動へのご支援をいただき、おかげさまで目標金額を達成いたしました。

皆様のあたたかいお力添えのもとマニフェストの制作の一部に充てさせていただきました。

●地域政党京都党assembly2015マニフェスト発表会を開催！！

2015年3月23日、『地域政党京都党assembly2015マニフェスト発表会』を開催いたしました。ご参加いただきました皆様には、同日マスコミにも公表致しました地方議会版マニフェストをお配りし、代表の村山より、京都党が目指す『世界一住みたい街』について詳しくお話をさせていただきました。

また、地域政党京都党の堀場雅夫最高顧問にも京都の未来についての熱いお言葉を頂戴いたしました。

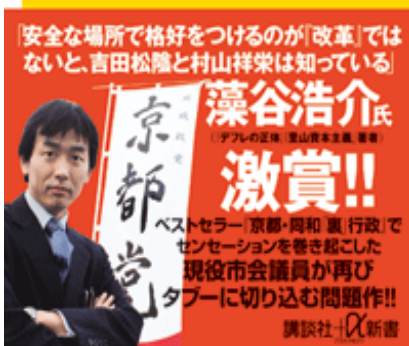
年度末のお忙しい中にも関わらず、多くの方にご臨席賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

発表いたしました地方議会版マニフェストにつきましては、地域政党京都党ホームページにて公開致しております。ご参照くださいませ。

地方を食いつぶす「税金フリーライダー」の正体 タカリと粉飾の日本病

村山祥栄 著

村山新著
大好評発売中！



お近くの書店にてお買い求め下さい

内容紹介

「安全な場所で格好をつけるのが『改革』ではないと、吉田松陰と村山祥栄は知っている。」——藻谷浩介氏（『デフレの正体』『里山資本主義』著者）、推薦！

京都市の「同和行政」の間に単身斬り込み、センセーションを巻き起こしたベストセラー『京都・同和「裏」行政』の著者、村山祥栄・京都市議が再び「触れてはいけないタブー」に迫る！

巨額の人件費、給与額に迫るほどの「不明朗な手当」、粉飾され続ける過去の事業の大赤字、信頼できない公表データや数字、しがらみにどっぷりつかった不明瞭支出……一般市民が知らない、お役所の奥深くで進行する恐るべき事態の数々。人口減少の前に、お役人文化によって地方の破綻はやってくる。

この国を破綻させる「日本病」を白日の下にさらす、いま必読の1冊。